

大規模災害を想定 聴覚障害者ら 初の避難訓練

明石市

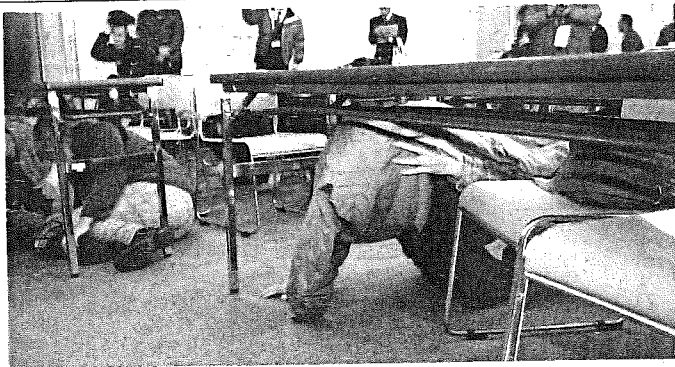
大規模災害の発生時、障害のある人たちの避難活動にどのような課題が生じるかを考え、今後に生かそうと、明石市は15日、同市貴崎の市立総合福祉センターで、市内の聴覚障害者や手話通訳者らを対象にした地震の避難訓練を、初めて実施した。

訓練では、「揺れた」との合図で聴覚障害者らが机の下に身を隠し、揺れがおさまるまで待機。

その後、手話や筆談でコミュニケーションをとりながら、3階から階段を下り、建物外の駐車場まで避難した。

訓練終了後、聴覚障害者

地震を想定した訓練で、机の下に身を隠す参加者＝明石市貴崎(同市提供)



からは「今回と違って1人で行動しているときに地震に遭遇したらどうすればよいか」などの意見が出た。同市福祉総務課は「今後は視覚障害者や身体障害者の方を対象にした訓練も実施したい」としている。